

不易と流行パート3 ～みんなの力で交通安全～

蝉の声に暑さを覚える今日この頃、保護者・地域の皆さまにはますますご活躍のこととお喜び申し上げます。1学期は本校の教育活動並びに各種行事にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

さて、7月11日～20日までの期間、本県では「わかやま夏の交通安全運動」が行われています。そのため、校区内を巡回してくれる警察車両を見かけることが多くなっています。学校でもこの機会に、4月から気になっていた交通安全について、全校集会で話をしました。

小学生の交通事故件数は、10年前と比較して半減しています。統計によりますと、1年のうちで5月に一番多く発生していて、時間帯は、午後3時から6時の間が多くなっています。さらに、被害を受けた子供のほぼ半数を小学校1、2年生が占めているというデータも出ています。また、歩行中の事故の原因は、「飛び出し」や「斜め横断」等が多いのですが、車両側に原因があったケースも同程度あります。

毎朝学校下の交差点で、子ども達の登校の様子を見ていますと、低学年の子どもは、友達とおしゃべりに夢中になったり、道端の色々な物に気がいったりと、車に注意をはらうのは少し難しいようです。朝、校区内を車で通るドライバーは、ほとんどが同じ時間、同じ道を運転しているため、道路事情を熟知され、子どもたちにも十分配慮してくれています。横断歩道で子どもが立っていると止まってくれる車が多くなったとも感じます。そのこともあって、これまで登校中に大きな事故は起きていません。今後も交通事故に遭わないために、子ども達には、次の3つのことを守ろうと呼びかけました。

- 1 歩道は2列以上で歩かない。(歩道のない道は1列)
- 2 横断歩道では必ず止まり、左右を確認する。
- 3 斜め横断や飛び出しは絶対しない。



夏休み中は、子どもだけで外へ出かける機会が増えますので、ぜひお家でも危険箇所と交通安全についてお子様といっしょに確認をしてください。

また、最近子どもが交通事故の加害者になってしまうケースがあります。高学年になると自転車に乗って出かける子が多くなります。そんな時、誤って歩行者にぶつかって重傷を負わせてしまい、多額の賠償をしなければならない例が増えています。今は、普段から自転車を安全に運転し、事故に遭わない・遭わせないようにすることが大切になっています。自転車保険の加入や13歳未満の幼児および児童に対するヘルメットの着用努力義務についても、親子で話し合ってみてください。

——充実した夏休みを過ごすために——

20日から子ども達が楽しみにしている夏休みが始まります。しかし、自由な時間が増える夏休みをどう過ごすかは、小学生にとってはとても大きな課題です。低学年の子どもはお家の人に手伝ってもらって過ごし方を考えましょう。中学年以上の子どもは、自分で計画を立てお家の人にアドバイスしてもらいましょう。私からのアドバイスは、次の3点です。

- ①病気やけが、事故に気をつけ、2学期の始業式には元気な姿で登校しましょう。
 - ②「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけ、規則正しい生活リズムで過ごすこと。特にお盆明け5日間は、授業日の生活リズムに戻しましょう。
 - ③何か一つのことを継続すること。30日続ければ必ず成果が表れますからがんばりましょう。
- 充実した夏休みになることを期待しています。